

(様式2)

放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	〈中・9〉 いわき市立赤井中学校		
〈実施日〉	平成28年	月	日()
〈実践教科等〉	※当てはまる番号に○を付けてください。4は()に教科等を入れてください。		
	1 理科	2 学級活動	3 総合的な学習の時間
			4 その他(社会科)
〈実践内容〉	1 理科の授業での放射線等に関する教育 ・3年理科で実施。「科学技術と人間」 →放射線副読本「知ることから始めよう 放射線のいろいろ」を使用 →放射線の基本的な性質 (放射線の種類・透過力、放射性物質・放射線・放射能のちがい、放射線・放射能の単位) →放射線による影響 (外部被ばくと内部被ばく、自然放射線量、放射線から身を守る方法) →放射線の利用 (医療、農業、工業、自然・人文科学、先端科学技術)		
	2 学級活動での放射線等に関する教育 ・放射線についてのパワーポイントを使っての放射線教室 →放射線とはどのようなものか →放射線の種類や単位の違い(Bq, Gy, Sv) →人体に関する影響 →放射線との関わり方		
	3 社会の授業での放射線等に関する教育 ・歴史的分野「文明のおこりと日本の成り立ち」 →放射性炭素による年代測定 ・地理的分野「資源や産業の特色」日本の発電所と新エネルギー →原子力発電所事故による放射性物質の放出		
〈成果〉	・放射線についての基礎・基本的な内容を確認したことにより、福島県が抱えている問題に目を向けようとする生徒が見られた。 ・パワーポイントを使って視覚的に伝えたことで、生徒たちも分かりやすかったようである。 ・身近なところで放射線が活用されていることや、学問の分野で必要とされていることを学習し、放射線の短所だけでなく長所についても学ぶことができた。		
〈課題〉	・放射線は危険なものであるという印象が大きいですが、正しい知識と関わり方を習得させることが大切である。 ・原発事故から5年たち、放射線についての知識や考え方をもう一度確認していく必要がある。正しい知識や考え方を確実に身につけ、正しい情報を社会に対して伝達していける態度を養うことが大切である。		
資料作成担当者職(教諭)氏名	(青木 晋也)	学校電話番号	(25-4610)

【資料作成上の注意】

- 平成27年8月～平成28年7月の実践についてまとめてください。
- 提出期限の平成28年8月1日(月)までに電子メールで送信してください。
(送信先: kakuta-k@city.iwaki.fukushima.jp)